

## 【ホームページ掲載用の研究概要】

研究課題名 3D方式を用いた新脊柱彎側症検診の検討

本研究は、ちば県民保健予防財団法人を対象とする医学系研究に関する倫理審査委員会の承認を得て、理事長が許可をした研究であり、平成28年度に当財団で実施したA私立の小学生、中学生、B市立の小学生、中学生を対象にモアレ検査と3Dスコリオグラフィー検査を行い、その結果と2次検査の低線量X線検査の結果との考察を行って、3Dスコリオグラフィー検査がこれまでのモアレ検査と同等以上の精度を持つことを確認するための比較研究を行う事を目的として実施し、研究期間は平成28年度末の予定です。

当財団では、千葉県が定める「千葉県学校保健集団検診要綱」に基づき脊柱（せきちゅう）側彎症（子供の成長期に背骨がねじれを伴って左右に曲がる病気）の早期発見のため、小学5年生と中学1年生（一部、小学6年生と中学2年生）を対象として検診を行っております。この病気は、ほとんど痛みを伴わないために発見が遅れることがあり、発見が遅れ背骨の曲りがひどくなると元に戻せません。そのため、この病気は背骨の曲りが進行する前に診断し、早く治療につなげることが大切になります。

この病気を見つけるために、モアレ検査という検査を行っております。この検査は背中にしま模様を写し、このしま模様が背骨を中心として左右対称か否かで病気を診断するものです。この様な大事な検査のため、検査に当たってはなるべく精度の高い機械を使用する必要があると考えており、今使用している機械も十分に実績はあるものですが古くなってきたことから、新しい機械の導入を検討しています。

新しい機械を導入するに当たっては、新しい方法の機械（3Dスコリオグラフィー検査）が、現在使用している機械（モアレ検査）に比較して同等以上の精度を持っていることを確認しておかなければなりません。

この研究により、今後の児童、生徒の脊柱側彎症の早期発見に役立てることが期待できます。

1. 本研究はデータのみを収集する疫学研究であり、本研究のために新たに検査等を行うことはありません。
2. 団体名、学校名、個人名などの個人情報を削除した上でデータの分析を行います。
3. 研究の成果は学会や学術雑誌等で公表する予定ですが、個人が特定できる情報を公表することはありません。
4. 本研究の主任研究者及び分担研究者は、本研究に関する利益相反はありません。

本研究にご自身のデータが利用されることについてご同意いただけない場合やお問い合わせ等につきましては、下記までご連絡お願いいたします。

## 【研究責任者】

公益財団法人ちば県民保健予防財団 木更津健診班 長谷部 勉